

令和8年度 病虫害防除技術情報 第6号

令和 8 年 7 月 21 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

ピーマンにおけるハダニ類の防除について

令和8年7月中旬に実施した巡回調査では、発生圃場率、寄生株率ともに、平年を上回っており（図1）、優占種はカンザワハダニでした。

福岡管区気象台の発表によると、今年の梅雨明けは7月8日と平年(7月19日)より11日早い梅雨明けとなりました。九州北部地方の1ヶ月予報（7月16日福岡管区気象台発表）では、平均気温は平年並20%、高い確率70%、降水量は少ない確率が30%、平年並40%と予想されています。

今後、梅雨明けを機にハダニ類が発生しやすい高温乾燥条件が続くと考えられるため、発生状況に注意し、早期発見に努めて速やかに防除を実施してください。

1. 発生の状況

7月中旬に実施した巡回調査結果

発生圃場率：55.6%（平年：14.4%、前年：44.4%）

平均寄生株率：13.8%（平年：2.3%、前年：11.1%）

2. ハダニ類の予測

7月中旬の調査で、発生圃場率が55.6%、寄生株率13.8%と平年(過去10年間)に比べ高い発生が確認されています。今後も、発生面積、発生量ともに多い状態が続くと予想されます。

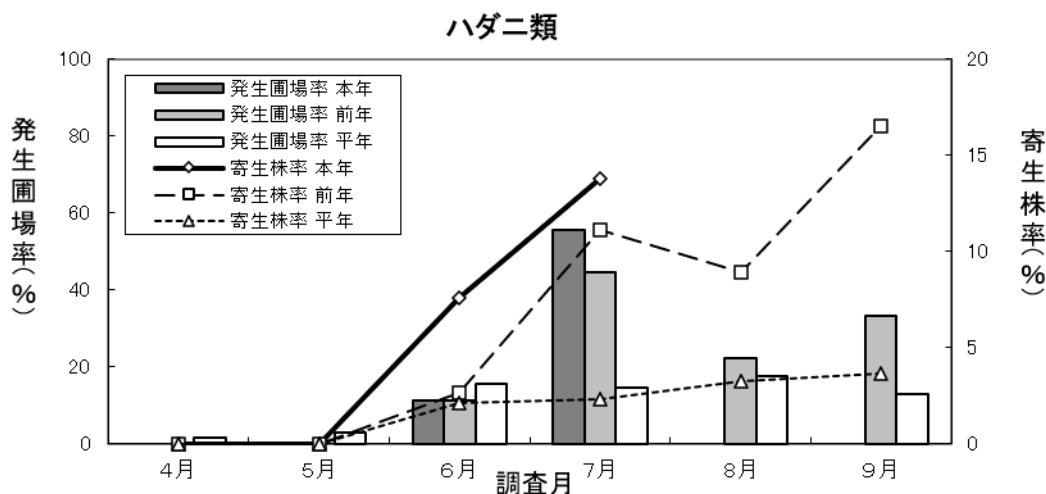


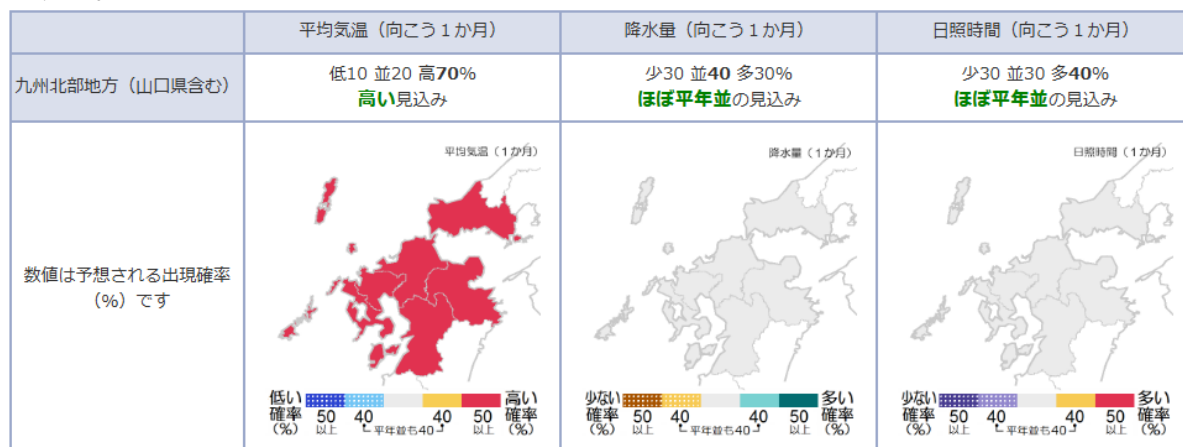
図1 発生予察巡回調査（ピーマン）におけるハダニ類の発生状況

3. 今後の気象状況

7月16日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（7月18日から8月17日まで）は以下のとおりとなっております。気温は、平年並か高いとの予報であり、本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるため、注意が必要です。

福岡管区気象台のホームページ

(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>) より抜粋。



4. 防除上の注意事項

- (1) 本虫は高温乾燥条件で多発しやすいため、圃場をよく観察し、早期発見に努めて速やかに防除を実施する。
- (2) 本虫は紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息するので、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。散布は曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行い、薬害に注意する。
- (3) ハダニ類の薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」の「ピーマン」「野菜類」の項目を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>

